

令和元年度 学校評価について

上野原市立上野原西中学校

1 本年度学校評価の基本的な考え方

- (1) 自己評価
 - 年度当初に学校長より示された「学校経営方針（指導の重点）」に基づき評価項目を設定する。（評価項目数：23）
 - 生徒及び保護者アンケートは昨年度の内容に検討を加え、自己評価の参考資料とする。
 - 自己評価の結果に基づき、改善策等を検討する。
- (2) 学校関係者評価
 - 学校評議員による学校関係者評価委員会を開催し、自己評価の結果及び改善策を基に学校関係者評価を実施する。
- (3) 評価結果の報告及び公表
 - 自己評価及び学校関係者評価の結果を基に報告書を作成し、上野原市教育委員会に報告する。
 - 保護者へアンケート結果の公表を行う。

2 本年度学校評価の経過

- (1) 保護者アンケートの実施（12月）→教職員への結果の提示（1月）
→保護者への公表（3月）
- (2) 生徒アンケートの実施（12月）→教職員への結果の提示（1月）
- (3) 自己評価（教職員）の実施（12月）→教職員への結果の提示（1月）
- (4) 校務運営委員会での改善策の検討（1月）
- (5) 職員会議での改善策の検討（2月）
- (6) 学校関係者評価の実施（2月）
- (7) 学校評価報告書の提出（3月）

3 生徒アンケートの結果について（詳細は資料参照 P 6～）

- (1) 回答は記名方式で実施した。
- (2) アンケートは昨年度の内容と同一のものを実施した。
- (3) アンケート回答結果には、以下の傾向が見られた。

- 肯定的な回答の数値が比較的高い質問項目は以下の内容である。

Q 1 8 「学校のきまりや約束ごとをしっかりと守っていますか。」
(本年度：97.1% 昨年度：96.3%)

Q 2 2 「委員会活動にしっかりと取り組んでいますか。」
(本年度：93.7% 昨年度：95.3%)

Q 2 0 「朝読書にしっかりと取り組んでいますか。」
(本年度：93.2% 昨年度：92.6%)

Q 1 7 「学校で先生やお客さんに対して自分からあいさつをしていますか。」
(本年度：92.7% 昨年度：89.4%)

□否定的な回答の数値が比較的高い質問項目は以下の内容である。

Q 1 0 「授業中に発言や発表をしますか。」
(本年度：47.6% 昨年度：43.8%) 【あまりしない、しない】

Q 9 「授業（勉強）でわからないことがあるときは、先生に聞いていますか。」
(本年度：37.1% 昨年度：27.2%) 【あまり聞いていない、聞いていない】

Q 8 「困ったときに相談できる先生がいますか。」
(本年度：29.6% 昨年度：32.3%) 【あまりいない、いない】

Q 1 2 「宿題の他にも家庭学習（塾や家庭教師を除く）をしていますか。」
(本年度：27.3% 昨年度：31.3%) 【あまりしていない、していない】

□生徒アンケートの結果、生徒用記述より

ほとんどの生徒が学校のきまりや約束ごとをしっかりと守っていると回答している。また、委員会活動や朝読書、清掃活動や合唱活動への取り組みに対して肯定的な記述が多く、西中生としての自信と誇りになっていることがわかる。

否定的な回答の数値が比較的高いものとして、授業中に発言や発表をすることや学習でわからないことを先生に聞いているか、という項目が上げられる。また、改善は見られるが、困った時に相談できる先生がいるかや家庭学習の定着にはまだまだ課題があるといえる。

改善した方がよいと思うこととして、行事等の取組に対する意識の差、掲げた目標の実行をあげている生徒が多い。これは決めたことを実行していこうとする真面目さ、何事も皆で協力して取り組みたいという西中生の特性なのかもしれない。生徒一人ひとりに確かな学力を身に付けさせるとともに、生徒たちのさまざまな思いを受け止めながら今後の指導に生かしていきたいと考える。

4 保護者アンケートの結果について（詳細は資料参照 P 1 1 ～）

- (1) 回答は無記名方式で実施した。
- (2) アンケートは昨年度の内容と同一のものを実施した。
- (3) アンケート回答結果には、以下の傾向が見られた。

□肯定的な回答の数値が比較的高い質問項目は以下の内容である。

- Q 1 4 「お子さんは、朝食を食べて登校していますか。」
(本年度：97.5% 昨年度：96.5%)
- Q 4 「お子さんは、学校のきまりを守っていると思いますか。」
(本年度：93.3% 昨年度：95.4%)
- Q 1 0 「学校開放日は、子どもたちの様子を知るよい機会になっていると思いますか。」
(本年度：90.8% 昨年度：84.4%)

□否定的な回答の数値が比較的高い質問項目は以下の内容である。

- Q 1 6 「お子さんは宿題の他にも家庭学習(宿や家庭教師は除く)をしていると思いますか。」
(本年度：47.0% 昨年度：45.1%) 【あまりしない、しない】
- Q 2 「学校は、子どもたちの学校での様子を積極的に保護者に知らせていると思いますか。」
(本年度：39.0% 昨年度：40.5%) 【あまり思わない、思わない】
- Q 6 「お子さんは、授業の内容を理解していると思いますか。」
(本年度：31.9% 昨年度：31.2%) 【あまり思わない、思わない】

□保護者アンケートの結果、保護者用記述より

生徒用記述と同様に、あいさつや合唱、若葉祭などの生徒の取り組みに関して肯定的な記述が多い。授業や家庭学習にかかわる課題に対する意見が多く、学力向上に向けての期待を強く感じた。学校教育に対する保護者としてのさまざまな思いをあらためて知ることができた。

生徒の学習環境や安全確保に関わること、登下校の安全に関すること、学校生活のきまりなど、さまざまな面から、多くのご意見をいただいた。継続して検討していきたい。

生徒指導や教職員の生徒への関わり方についても、具体的事案にかかわっての意見をいただいた。教職員の意図しているところが保護者にきちんと伝わっていない部分もあり、的確な対応と連携の大切さを感じた。さまざまな指摘を真摯に受け止め、教職員と生徒・保護者との信頼関係がよりいっそう深まるよう引き続き取り組んでいきたい。

5 自己評価（教職員）の結果について（詳細は資料参照 P 1 5 ～）

- (1) 回答は無記名方式で実施した。
- (2) 「学校経営方針（指導の重点）」に基づき評価項目を設定した。
- (3) 自己評価の結果は、下の特徴が見られる。

□評価結果が比較的高い項目（平均が3.3を上回っているもの）

- 2③合唱への取り組みを継承・発展させようと努めている。
(本年度：3.52 昨年度：3.61)
- 7②教育公務員としての自覚を持った行動を心がけている。
(本年度：3.41 昨年度：3.32)
- 1②学習指導要領を踏まえ、系統的な教育課程の実施と評価・改善に努めている。
(本年度：3.37 昨年度：3.24)
- 7①教職員としての資質・能力の向上のために、学ぶ姿勢をもち続けようとしている。
(本年度：3.36 昨年度：3.35)
- 2①道徳の時間を軸として、すべての教育活動を通して道徳教育を推進し、豊かな人間性を育むことに努めている。
(本年度：3.35 昨年度：3.30)

□評価結果が比較的低い項目（平均が3.1を下回っているもの）

- 2⑤委員会活動・係活動・当番活動を充実させ、自己有用感を育むよう努めている。
(本年度：2.91 昨年度：3.09)
- 6③学区内小学校や上野原高校との連携を図ろうと努めている。
(本年度：2.95 昨年度：3.10)
- 6①教育活動についての情報発信を積極的に行うように努めている。
(本年度：3.00 昨年度：2.95)
- 5②自助・共助の実践力を身につけられるように努めている。
(本年度：3.05 昨年度：3.14)

6 今年度の改善策について

(1) 昨年度実施した自己評価結果・生徒及び保護者アンケートに基づき設定した3つの改善策について校務運営委員会及び職員会議で検討した。

①魅力ある学校づくりに向けて

・コミュニケーションの基本である「あいさつ」を大切にするとともに、さらに魅力ある学校づくりを目指す。

- ・教員、生徒とも気持ちのよい「あいさつ」をする。
- ・一人一人の個性が異なることを常に意識し、きめ細かい教科指導を実施する。
- ・日頃から発表や意見を肯定的にとらえ、共感的人間関係を構築する。
- ・生徒の成長を評価するとともに、達成感を実感することができる場面をつくる。

□学校評価 ・コミュニケーションの基本である「あいさつ」を大切にするとともに、さらに魅力ある学校づくりを目指すように努めている。
(本年度：3.14)

□職員の見解

- ・あいさつはもっと爽やかに行いたい。まずは教職員間でのあいさつから。教師同士があいさつをかわし、爽やかにコミュニケーションをとっているところを生徒に見せることも大事だと思う。教員がしないのに生徒には言えない。
- ・生徒の個性や、発する言葉を大切にしようとしている点が良いと思う。個人的に、生徒の発言に対する教師側の反応に気をつけたい。うっかり教師の言葉で上書きしてしまうことがあるので、共感的に、肯定的に上手に返すスキルが自分はまだまだだと思う。いろいろな先生方の話し方を見て学んでいきたい。
- ・普段からいろいろな場面で、あいさつ、発言するタイミング、伝え方など、言葉に関わる指導を丁寧に行うと、生徒は他者との関わり方が学べて良いのではないかと感じます。生徒にとって、学校は家庭外の社会の一つであり、社会での過ごし方を中学校生活の中で学んでいくと思います。
- ・目標設定したにもかかわらず、子どもたちの挨拶が今ひとつのように感じる。特に、自主的に挨拶を交わす、登校時の「おはようございます」や下校時の「さようなら」はしっかりいえるようにしたい。教職員が見本になるように挨拶をすることや、教師側から誰にでも気持ちよく挨拶をすることも大事。「行動で示す見本」を教師がしないとよくなりません。「教師・生徒ともに」を意識し、来年度も挨拶に関する目標は必要である。
- ・「魅力ある学校づくり」、西中の魅力とは何かを全職員で確認することからはじめたい。

②生徒指導・生徒理解について

・各取り組み（朝の会・帰りの会・清掃・給食など）で師弟同行を徹底し、その中で生徒理解に努め、またその情報を職員間で共有する。

□学校評価 ・朝の会、帰りの会、清掃、給食などで師弟同行を徹底し、生徒理解に努める。
(本年度：3.23)

□職員の見解

- ・職員間での生徒の情報交換、共有が少ないと思う。学年だけ把握していれば良いのではなく、全体で共有し、多くの目で多くの生徒に目を配った方が良いと思う。良いことも悪いことも共有しあうことで職員間のコミュニケーションも深まるし、それが生徒にも良い形で還元されると思う。
- ・生徒のそばで、生徒の姿を見る、顔を合わせる、声をかけるなどを職員全体で丁寧に行うことを意識していきたい。
- ・給食の時間や清掃の時間は、生徒とともにあるべきだと思います。それは、授業では見られない生徒の一面が見える時間だと思うからです。いつも気をきかせている生徒がいたり、ずるい生徒が楽しそうにいたり、そういうクラスの不公平が見られる時間ではないかと思うので、それを捉える良い時間でもあり、生徒と話す貴重な時間でもあると思いますので、忙しいとは思いますが、教室へ行く時間を増やすように心がけたいです。
- ・今後も師弟同行を実践し、生徒の変化に早期に気づけるようにしていきたい。

③家庭学習について

・「自主学ノート」等 各学年で必ず取り組む。取り組みの様子を点検表等を使用し、毎日点検する。

- ・家庭学習の取り組みを工夫し、とにかく取り組ませる。
- ・教員側にも覚悟が必要、取り組ませるのであれば徹底して取り組ませる。

□学校評価 ・家庭学習の効果的な方法を探り、自主学習ノートの取り組みを通して学習の習慣化、学習意欲の向上を図るように努めている。
(本年度：3.11)

□職員の見解

- ・各学年で生徒の実態が違っているので、自主学習の取り組み方も学年それぞれ異なってくるかと思いますが、全校で自主学習を意識するという雰囲気作りができたかと思っています。例えば、各学年の家庭学習の取り組みの結果を、全校集会の時などに発表してみても良いのではないかと思います。
- ・自主学チェックする教員を分担する、必ずしも担任でなくてもよいと思う。いろいろな先生が見て少しでもコメントが書いてあると生徒もうれしいし、やる気にもつながるのではないかな。
- ・自主学ノートの取り組みは、確かに大切なことですが、教師の側に覚悟がないとできないことで、この忙しい現状の中でなかなか、難しいと思われます。
- ・学習習慣が身につけていない生徒の多くは、何をしたら良いのかわからず、また、学力下位の者であるので指導者がいなくてもできるような極やさしい内容の課題のプリントなどを作って渡し、やってくるように伝え、家庭学習としてやってこさせる、など簡単な所から取り組む。
- ・学習は家庭学習、自主学習の習慣化をしたい。本校は教科担任が学年数いないので、学年ごとで他学年の教科担当も含め、取り組む形を作りたい。担任だけでなく教科担当とも共通理解する場を設けて、取り組んでいく必要がある。
- ・家庭での学習習慣の確立と基礎学力の定着を図るために、学校全体で取り組んでいけると良いと思う。継続して提出することが難しい現状を踏まえて、改善方法や必要性を全職員で学習して確認していきたい。
- ・家庭学習の必要性を校内研等で学習することも必要であると思う。生徒の実態も考慮する中で、難しさもあるが西中スタイルみたいなものができればと思います。

7 来年度に向けての改善策について（案）

①魅力ある学校づくりに向けて

・コミュニケーションの基本である「あいさつ」を大切にするとともに、さらに魅力ある学校づくりを目指す。

- ・生徒、職員ともに気持ちのよい「あいさつ」をする。
- ・一人一人の個性が異なることを常に意識し、きめ細かい教科指導を実施する。
- ・日頃から発表や意見を肯定的にとらえ、共感的人間関係を構築する。
- ・生徒の成長を評価するとともに、達成感を実感することができる場面をつくる。

②生徒指導・生徒理解について

・各取り組み（朝の会・帰りの会・清掃・給食など）で師弟同行を徹底する。

- ・共に取り組む中で生徒との人間関係づくりを構築し、生徒理解に努める。
- ・全職員がすべての生徒に関わり、成長を認め評価し、情報を職員間で共有する。

③家庭学習について

・「自主学ノート」等 各学年で取り組む。

- ・家庭学習の取り組みを工夫し、取り組ませる。
- ・学力が低い生徒への自主学習の支援として、教科担任を中心に課題を与え、取り組ませる。
- ・取り組みの様子を点検表等を使用し、全教職員が協力して点検する。